

新年のごあいさつ



日本商工会議所
会頭 三村 明夫



福井商工会議所
会頭 伊東 忠昭

明けましておめでとうございます。2021年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

さて、一国の生産性は「一人当たりGDP」で表されますが、日本は2018年時点で世界第31位に甘んじています。「一人当たりGDP」は国民一人当たりの豊かさだけでなく、効率的に働き得られた余暇を人との繋がりにも充てることで、幸福度を向上させる指標にもなることから、私はこれを日本の新たな国家目標に据え、その引き上げのために皆で知恵を絞り、汗をかき、柔軟に素早く対応できることが中小企業

経営者の強みであり、コロナを契機として新製品やサービス開発、業態転換、EC等も活用した国内外への販路開拓などに積極果敢に挑戦する経営者を、しっかりと後押ししてまいりたいと思います。

第二は、デジタル化を通じた生産性向上です。コロナ禍で初めてテレワークを体験し、デジタル技術の有用性に気付いた経営者も多いと思います。また、国や地方公共団体が今後デジタル化を進める中で、民間企業側もそれに対応していく必要があります。まずは身の丈に合った、低コストで利用可能なIT導入から始め、徐々にステップアップするなど、IT導入補助金等の支援策もフル活用し、中小企業のデジタル化を推進してまいります。

第三は、取引適正化です。大企業と中小企業が強く結び付いた日本経済の強さは、大中小の石が組み合わさって風雪に耐える「石垣」に例えられてきました。しかし、その石垣も修復、再構築する時期にきています。サプライチェーン全体のデジタル化により効率性を高め、コストアップや付加価値をフェアに分け合い取引価格の適正化を図る「大企業と中小企業の新たな共存共栄関係」の構築が必要です。商工会議所は、この趣旨に賛同した企業による「パートナーシップ構築宣言」の宣言企業が1,000社を超えるよう、積極的に後押ししてまいります。

今年も日本商工会議所は全国のネットワークを最大限活用し、中小企業と地域の発展、日本経済の再生に向けて、先頭に立って頑張っておりますので、皆さまの多大なるご支援、ご協力をお願いいたします。

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にとりましては幸多き一年となりますよう、ご祈念申し上げます。

昨年は、驚天動地の出来事に見舞われた一年でした。新型コロナウイルスという未曾有の困難に直面し、我が国経済は深刻なダメージを受けました。当面は、感染拡大防止と社会経済活動を両立させながら、経済再生の歩を進めていく状況が続きます。

福井商工会議所といたしましても、地域企業が足元の窮状を乗り越えるための金融・雇用安定支援に取り組むと同時に、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」を見据えたビジネスモデル変革やデジタル化、販路開拓等の支援に、総力を挙げて取り組んでまいります。

地域経済の回復には、地元消費を喚起し、経済循環をつくるのが重要です。当所は県と

連携し、GOTOイートやデジタルバウチャー（電子割引券）発行などの消費拡大キャンペーンを強力に展開いたします。また昨年、経済5団体で「ふくいEat・Meet・アクション」と称した共同アピールを宣言し、感染防止対策を十分に施した上で、経済界自らが会食会合・イベントを進めていく決意を示し、意識の共有を図ったところでありました。皆様におかれましても、感染拡大状況を鑑みつつ、地元店舗での積極的な消費活動をお願い申し上げます。

現下の難局を切り拓き経済回復を実現できるよう、当所は引き続き、行政・金融機関・支援機関等と連携しながら、新型コロナウイルス対策に最大限の努力を払ってまいり所存です。

昨年11月、青天の霹靂の如く北陸新幹線開業延期の報告がありました。開業延期は、まちづくり・地域商業・民間投資・並行在来線会社運

営などに大変大きな経済的影響があり、極めて遺憾なことであります。経済界としても遅延に伴う沿線インフラ整備の十分な支援措置、敦賀以西の確実な23年着工など、国に責任ある対応を求めてまいります。

また、北陸新幹線開業を県都福井の賑わいを生み出し輝かせる最大のチャンスと捉え、県・市・商工会議所の三者による「県都にぎわい創生協議会」を昨年7月に設置しました。短期・中期・長期にわたる戦略と具体的な行動作戦の策定を進め、官民連携・協働のもと、未来へ繋げるまちづくりと新幹線開業対策を推進してまいります。

本年も商工会議所の使命である「中小・小規模企業の育成」と「地域経済・社会の発展」に、全力を傾注し取り組んでまいりますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。